

アプローチデザインテクニック

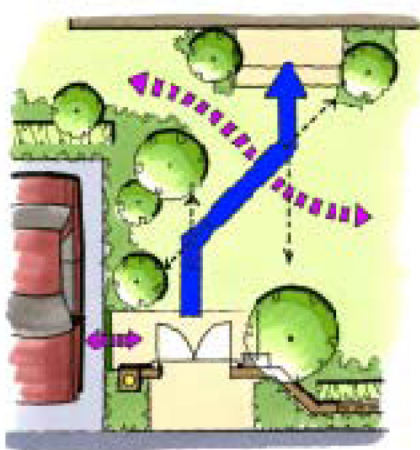
門まわりと玄関ステップを結ぶ通路のことをアプローチと呼びます。「ゾーニング」で解説した通り、先に駐車スペースと門まわりの位置を決めた後にアプローチの計画に入るのが一般的ですから、既に門の位置も決まっていますし、勿論玄関の位置も確定しているので、この間をいかに綺麗に繋ぐかがアプローチデザインのポイントとなります。

又、門まわり同様アプローチもエクステリアを印象づける重要な部分となりますので、床の素材や組合せにも十分注意を払って計画することが重要です。

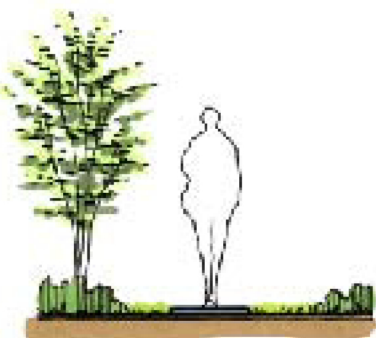
計画の基本は動線と視線のコントロール 1

ただ単に門まわりと玄関ステップの間を直線で繋いただけでは魅力的なアプローチとはならないでしょう。まずはお客様が門から玄関に向かってどの様に歩いて頂いたら気持ちよく感じて頂けるかを考えながらメインの動線をイメージします。次に駐車場やメインガーデン、サービスヤードへの補助的な動線を検討します。主な動線が決まれば次にアプローチを歩くときに前方に何が見えてくるのかイメージし、必要に応じて植栽やアイストップ、フォーカルポイントなどを配置していきます。

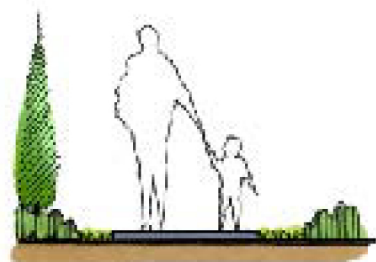
大切なのは機能性や安全性を意識しながら動線と視線を匠にコントロールすることなのです。



アプローチの基本寸法 2



人が一人で歩く通路巾としては60cm程度あれば良いがメイン通路としては狭い。



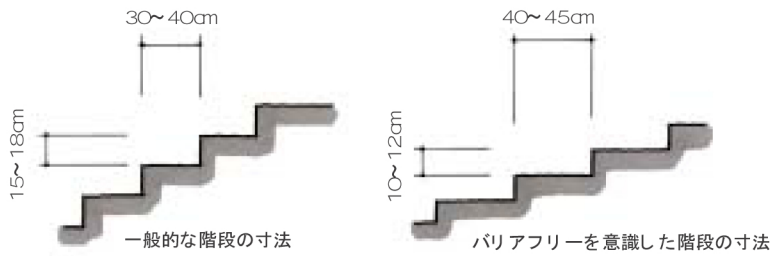
毎日頻繁に通る通路なので多少余裕を持たせて90~120cmは確保したい。



床の仕上がり高さはGLより2~3cm高くし、表面に2%程度の横断勾配を確保する。

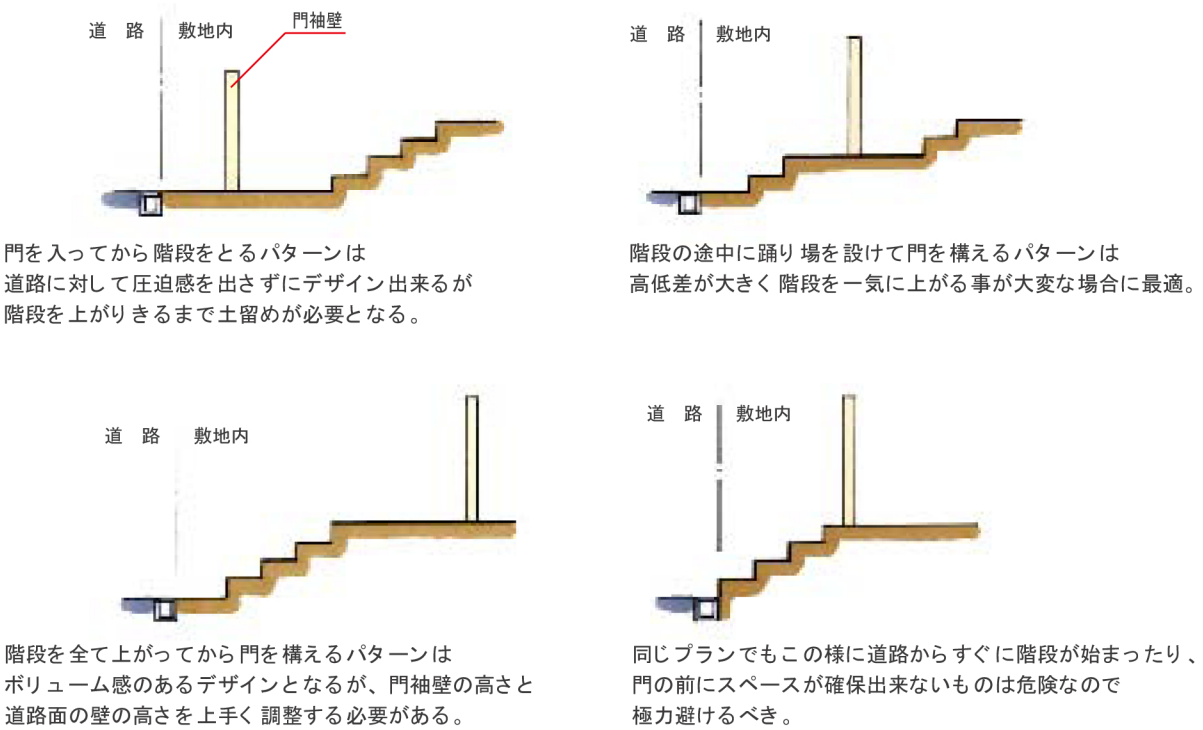
階段の基本寸法 3

敷地と道路に高低差がある場合はアプローチのどこかに階段を設ける事になります。その際、階段事故を起こさない様に階段の寸法やレイアウトには十分注意を払いましょう。一般的に踏み面は30cm以上、蹴上げは20cm以下が望ましく、蹴上げを低くした場合は踏み面を広くしてバランスをとります。



門まわりでの階段の処理パターン 4

階段はあまり敷地の奥には設けず出来るだけ道路側で処理する方が経済的でメインガーデンなどにも影響が出にくくなります。ここではその処理パターンと特徴を断面図を使って解説しましょう。

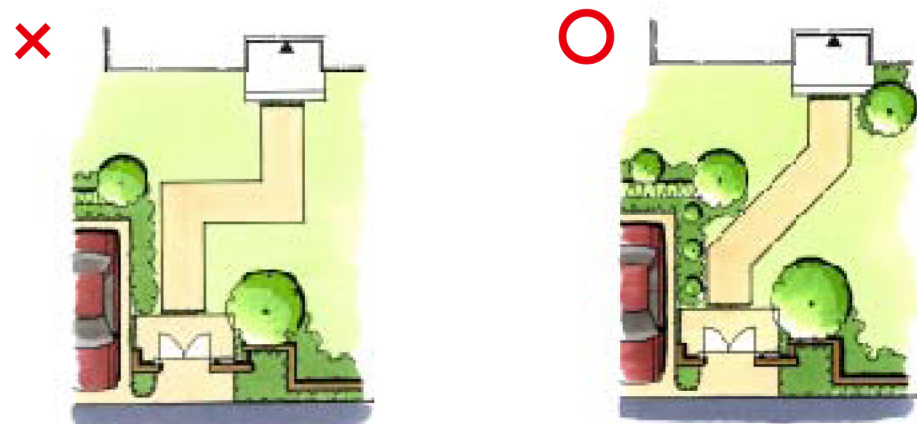


スロープの基本勾配 5

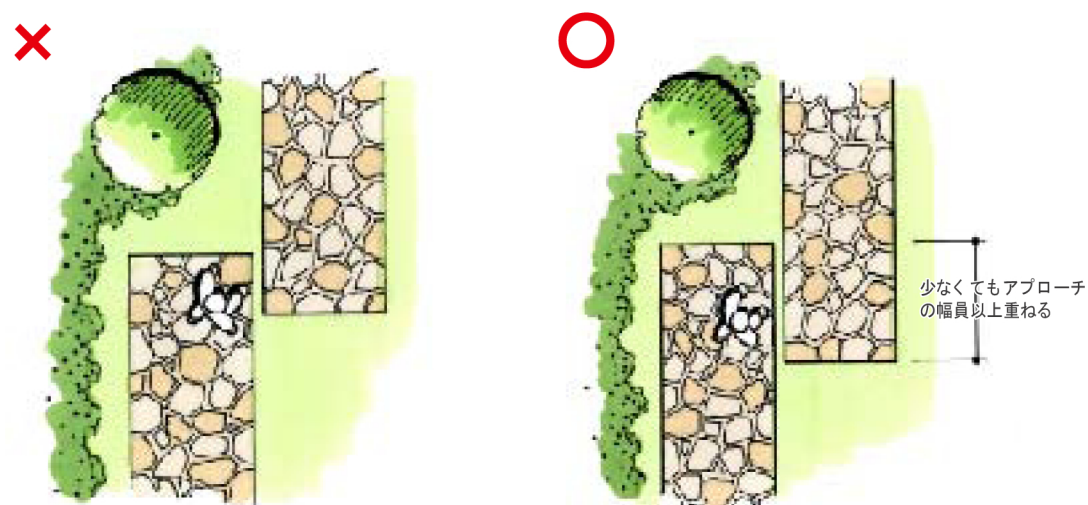
一般的に車椅子用のスロープの勾配は15:1以下にします。つまり上らなくてはならない高低差の15倍以上の水平距離が必要となるわけです。さらに、スロープの前後には必ず水平区間を設けなくてはなりません。



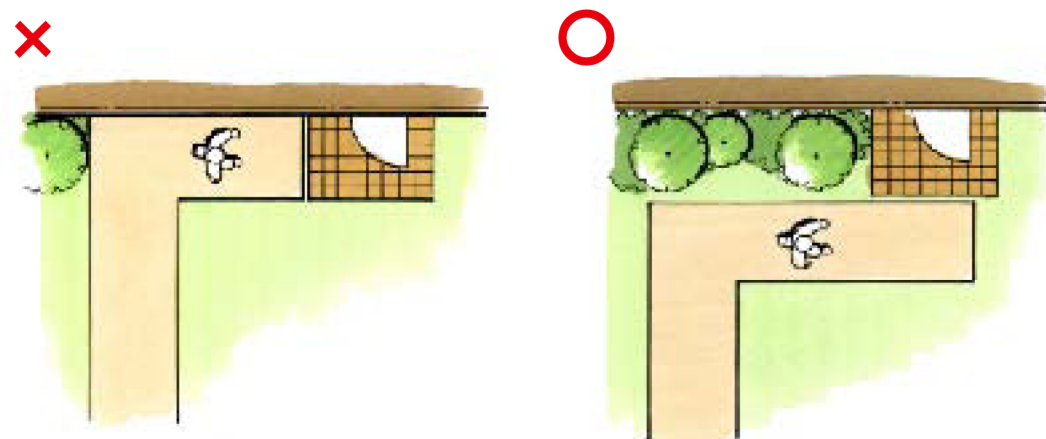
直線的なアプローチはシンプルモダン系の住宅によく合いますが、
どの様な点に注意をしないではいけないかいくつか例をあげて解説しましょう。



クランク状のアプローチは良く見かけるが、実際に利用してみると歩きにくい。
特に障害物が無い場合は中間のラインを斜めに処理した方が歩きやすいものになる。
また、進行方向前方に植栽などを計画し、柔らかい印象を与えるよう配慮したい。

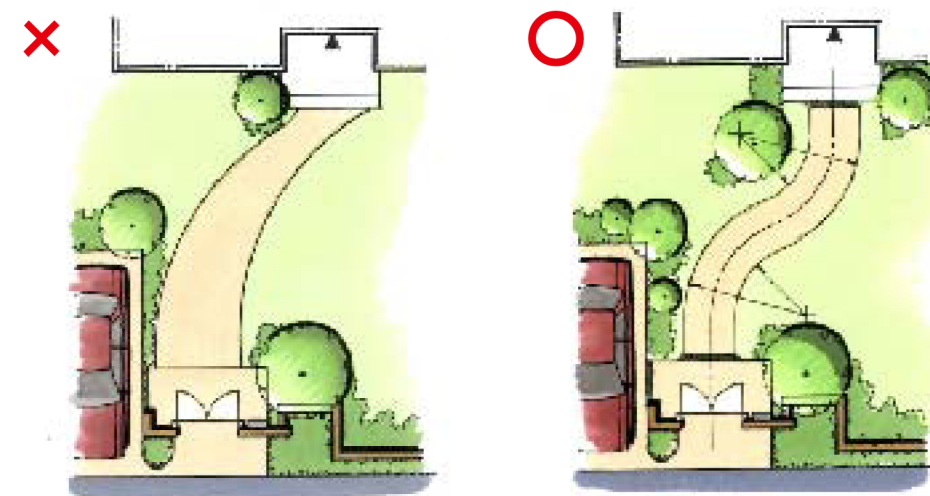


この様に床を分離する場合はその重複部分を大きくとらないと、歩きにくくなるので注意する。

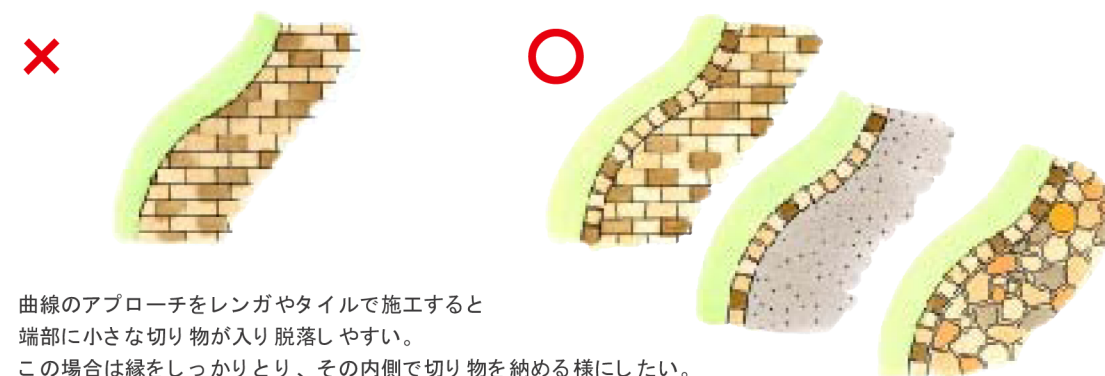


L字型アプローチは建物際で曲げると、正面に建物の基礎と外壁しか見え堅い印象を与える。
ステップ側面ではなく正面にレイアウトしアプローチと建物の間に植栽スペースを確保する事が望ましい。

曲線的なアプローチは柔らかい表情となり人気がありますが、
同じくどの様な点に注意をしないではいけないか見てみましょう。



曲線をラフなイメージで計画すると現場で施工する際、
位置決めが難しくなるばかりでなく施主に対して説得力がなくなる。
できればきちんとポイントを設け同心円の一部を使って計画する様心がけたい。



曲線のアプローチをレンガやタイルで施工すると
端部に小さな切り物が入り脱落しやすい。
この場合は縁をしっかりと、その内側で切り物を納める様にしたい。
仕上がりが手間を考えると、自然石の乱貼りや洗い出し仕上げの方が綺麗に納まる。

スロープを設ける場合でも階段を
合わせて計画することが望ましい
のですが、デザイン的に上手く処
理することが結構難しいものです。
当然手摺りやフットライトなども
あると良いでしょう。普段から身
の回りの施工事例等を良く観察し、
使い勝手とデザインが両立した素
敵なアプローチを提案できるよう
心がけましょう。

